

# 景気動向調査結果

(令和8年1月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 8 年 1 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 8 年 2 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、391 社（製造業 191 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 200 社）で、回答率は 56.9 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

# 令和8年1月の景気動向

## 1 総論

長野県経済は、エネルギー・原材料価格高騰等の影響により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられます。

製造業の業況は、全体では収益率について改善がみられ、特に電機・電子などではA I向け半導体関連の受注、生産が増加するなど、好調に推移しました。一方で、長引く米国関税措置の影響等で自動車関連の受注、生産は低調に推移しました。また、エネルギー・原材料価格高騰等の影響により、製造業全体では15期連続でマイナス水準となりました。

非製造業の業況は、DX化や省力化に伴うIT投資や半導体関連の需要増等を背景に、情報サービス業、卸売業で業況がプラス水準となっています。一方で、物価高騰に伴う人件費を含めた経費の増加、慢性的な人手不足、消費者の節約志向等から、小売業、飲食業、宿泊業で業況が悪化し、非製造業全体の業況は3期連続のマイナス水準となりました。

## 2 製造業

### (1) 業界の業況

前年同期（令和7年1月）と比較したD I（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は $\Delta 10.9$ となり、前回調査時（令和7年10月）の $\Delta 12.1$ より1.2ポイント改善しました。

3か月前（令和7年10月）と比較したD Iは $\Delta 8.4$ となり、前回調査時の $\Delta 4.1$ より4.3ポイント悪化し、17期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和8年4月）の予想では、D Iは $\Delta 1.6$ となり、16期連続のマイナス水準となりました。

#### 〔主な業種の動き〕

ア 電機・電子では、パソコンは個人向け・法人向け共に季節的要因での需要増により、受注、生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

半導体関連は、A I向けの受注、生産が好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しがみられます。抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは弱含んでいる一方、情報通信向けは下げ止まり、産業機械向けで底堅く推移しています。

モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資に回復がみられ、受注、生産が底入れしています。また、航空機向けは需要増により、受注、生産が順調に推移しています。

イ 一般機械では、工作機械は、自動車向けが受注、生産が低調に推移している一方で、A I向け半導体関連で受注、生産に持ち直しがみられます。金型は、自動車関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。建設機械は生産・販売が堅調に推移しています。

ウ 精密では、時計は、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、映像関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で受注、生産が低調に推移しています。水道、LPガスメーターは、受注、生産に一服感がみられます。

エ 自動車部品は米国関税措置の影響等で受注、生産が低調に推移しています。

オ 味そは、季節的要因に加え、製品販売価格改定前の駆け込み需要の反動で、受注、生産が低調に推移しています。酒類は、業界全体として、売上が伸び悩んでいることから、受注、生産が低調に推移しています。飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に一服感がみられます。

## (2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が28.1%と前回(27.4%)より増加し、「減少」とする企業が31.3%と前回(31.5%)より減少した結果、D Iは前回(△4.1)より改善し、△3.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が19.9%と前回(18.3%)より増加し、「減少」とする企業が29.3%と前回(22.8%)より増加した結果、D Iは前回(△4.5)より悪化し、△9.4となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業は19.1%、「減少」とする企業が16.0%となった結果、D Iは3.1となりました。

## (3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が28.6%と前回(27.4%)より増加し、「減少」とする企業が33.3%と前回(31.5%)と増加した結果、D Iは前回(△5.5)より改善し、△4.7となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が19.9%と前回(26.5%)より減少し、「減少」とする企業が28.3%と前回(22.4%)より増加した結果、D Iは前回(4.1)より悪化し、△8.4となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業20.7%、「減少」とする企業が17.0%となった結果、D Iは3.7となりました。

## (4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が42.2%と前回(42.4%)より減少し、「安い」とする企業が3.1%と前回(4.0%)より減少した結果、D Iは前回(39.1)より悪化し、38.4となりました。

3ヵ月前との比較では、「高い」とする企業が18.8%と前回(14.3%)とより増加し、「安い」とする企業が1.0%と前回(2.0%)より減少した結果、D Iは前回(17.8)より悪化し、10.9となりました。

3ヵ月後の予想については、「高い」とする企業が24.5%、「安い」とする企業が1.6%となった結果、D Iは22.9となりました。

## (5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が6.4%と前回(5.7%)より増加し、「苦しい」とする企業が19.3%と前回(17.7%)より増加した結果、D Iは前回(△12.0)より悪化し、△12.9となりました。

3ヵ月前との比較では、「らく」とする企業が3.2%と前回(5.8%)より減少し、「苦しい」とする企業が15.6%と前回(11.1%)より増加した結果、D Iは前回(△5.3)より悪化し、△12.4となりました。

3ヵ月後の予想については、「らく」とする企業が6.5%、「苦しい」とする企業が15.8%となった結果、D Iは△9.3となりました。

## (6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が24.5%と前回(22.2%)より増加し、「低下」とする企業が35.9%と前回(40.4%)より減少した結果、D Iは前回(△23.8)より改善し、△11.4となりました。

3ヵ月前との比較では、「上昇」とする企業が11.5%と前回(11.2%)より増加し、「低下」とする企業が26.2%と前回(26.5%)より減少した結果、D Iは前回(△15.3)より改善し、△14.7となりました。

3ヵ月後の予想については、「上昇」とする企業が11.2%、「低下」とする企業が25.5%となった結果、D Iは△14.3となりました。

## (7)製造業の業種別動向

### 電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは個人向け・法人向け共に季節的要因での需要増により、受注、生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、AI向けの受注、生産が好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しがみられます。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは弱含んでいる一方、情報通信向けは下げ止まり、産業機械向けで底堅く推移しています。

(モーター等) モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資に回復がみられ、受注、生産が底入れしています。また、航空機向けは需要増により、受注、生産が順調に推移しています。

(その他) 車載部品は需要の停滞により、受注、生産が低調に推移しています。

### 一般機械

(工作機械) 工作機械は、自動車向けは受注、生産が低調に推移している一方で、AI向け半導体関連で受注、生産に持ち直しがみられます。

(金型) 金型は自動車関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。

(建設機械) 建設機械は生産、販売が堅調に推移しています。

(農業用機械等) 農業用機械は、受注、生産が底堅く推移しています。

## 精 密

(時 計)

時計は、受注、生産が好調に推移しています。

(レ ン ズ)

レンズは、映像関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。

(計 器)

圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で受注、生産が低調に推移しています。水道、LPガスマーターは、受注、生産に一服感がみられます。

## 自 動 車 部 品

自動車部品は米国関税措置の影響等で受注、生産が低調に推移しています。

## 食 料 品

(味 そ)

味そは、季節的要因に加え、製品販売価格改定前の駆け込み需要の反動で、受注、生産が低調に推移しています。

(酒 類)

酒類は、業界全体として、売上が伸び悩んでいることから、受注、生産が低調に推移しています。

(飲 料)

飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に一服感がみられます。

## 織 維 ・ 衣 服

繊維・衣服は、季節的要因により、受注、生産が減少しています。

## 紙 ・ パルプ

ダンボールは、季節的要因により、受注、生産が減少しています。

## 印 刷

印刷は、自治体向け特需等もあったものの、印刷・製本の需要の低迷などにより、低調に推移しています。

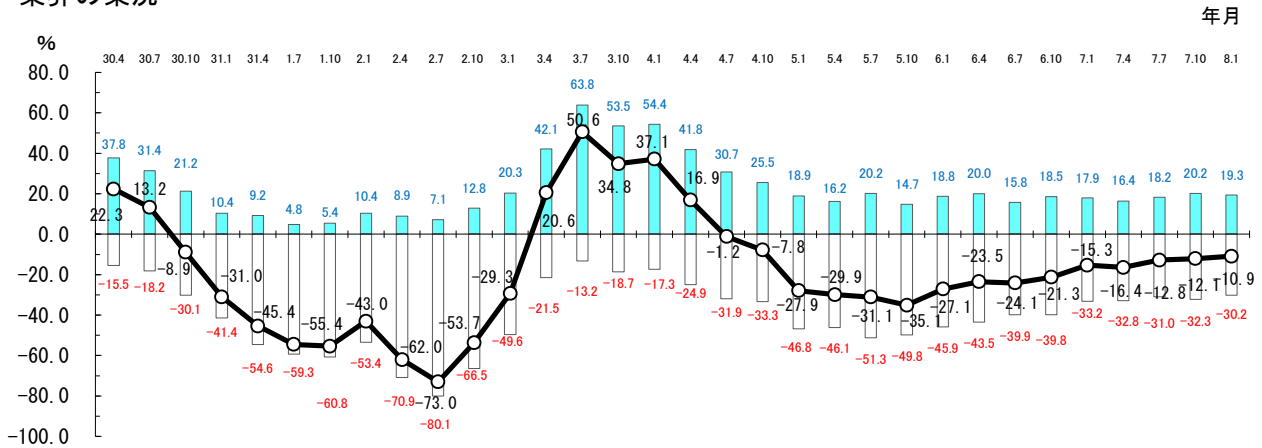
# 景気動向調査集計結果

(注)棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。  
折れ線グラフ（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

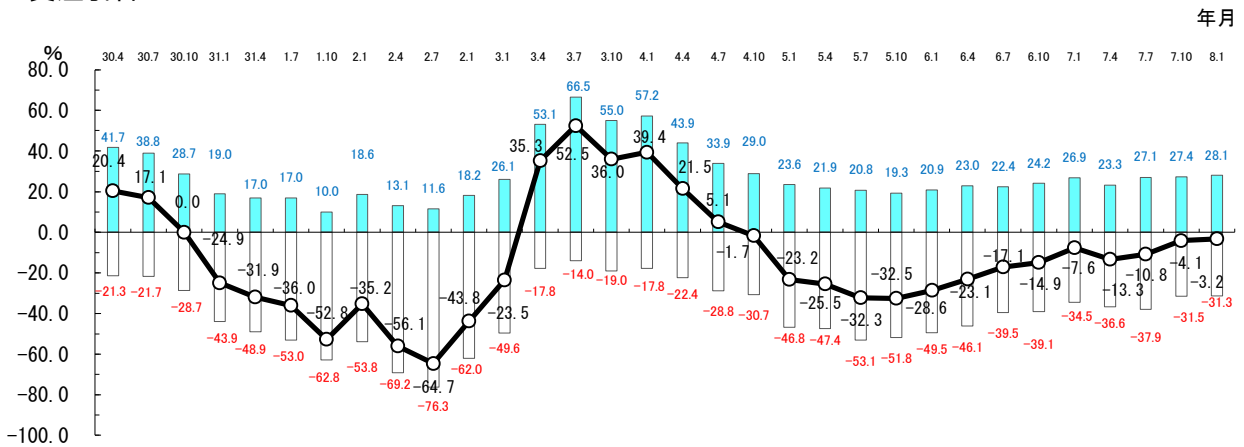
## 1 製造業

### (1) 前年同期に比べて

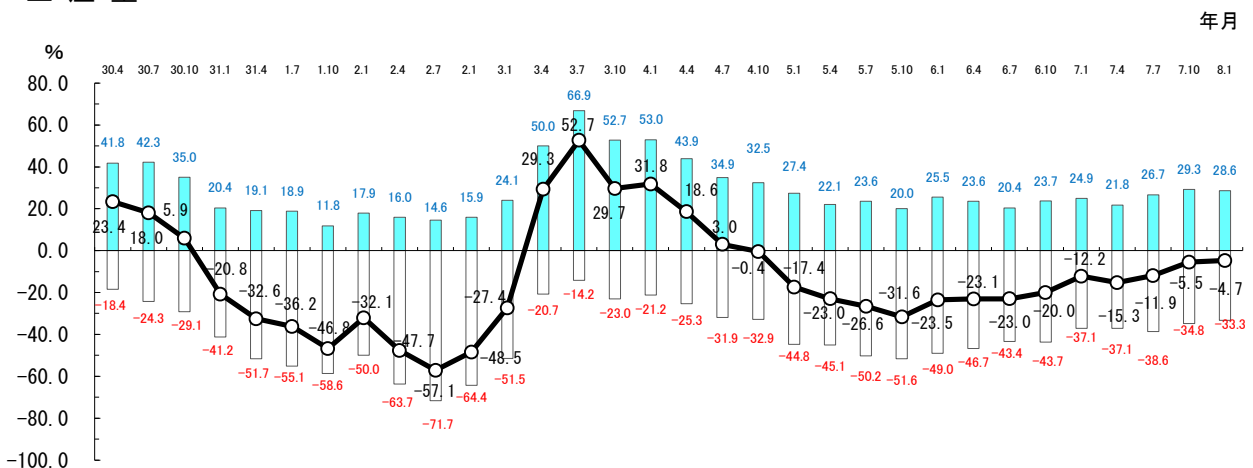
#### 業界の業況



#### 受注引合

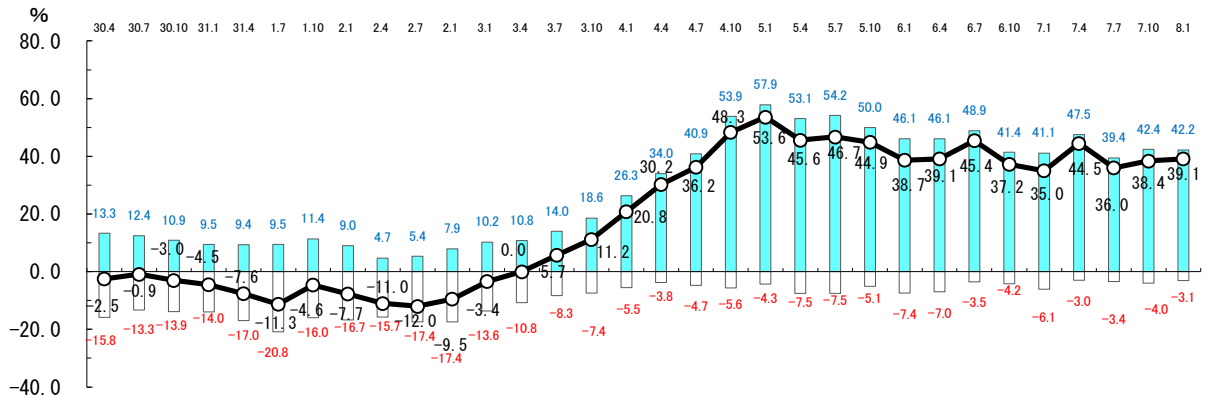


#### 生産量



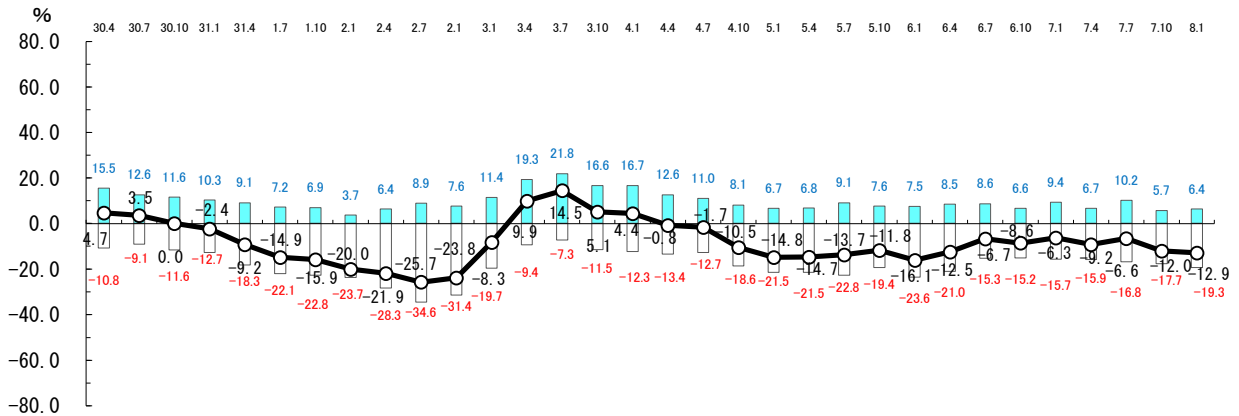
### 製品販売価格

年月



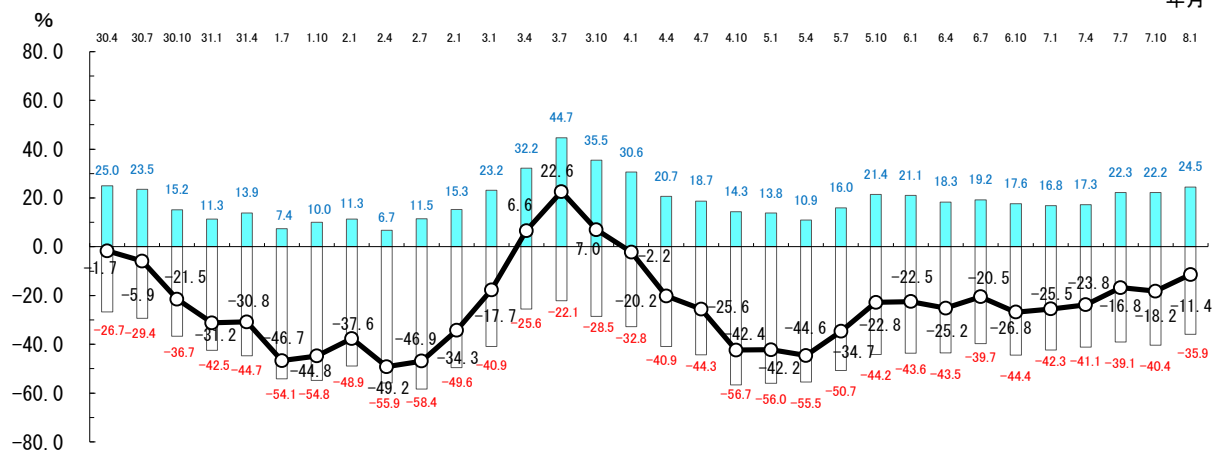
### 資金繰り

年月



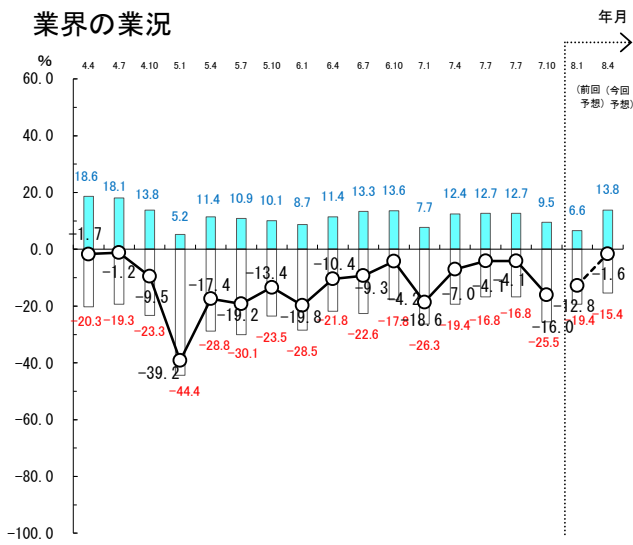
### 収益率

年月

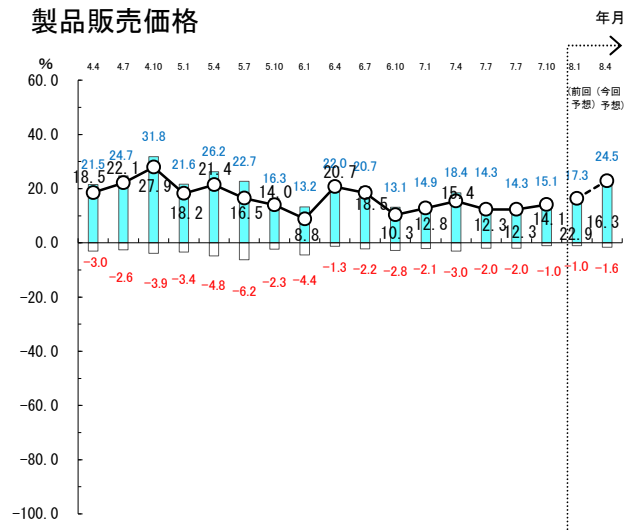


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

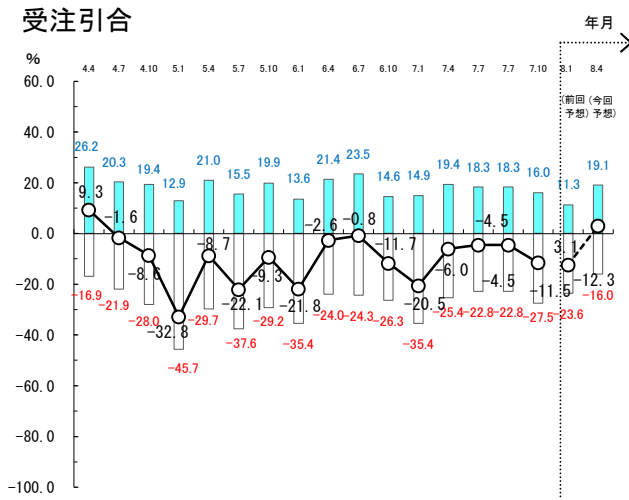
業界の業況



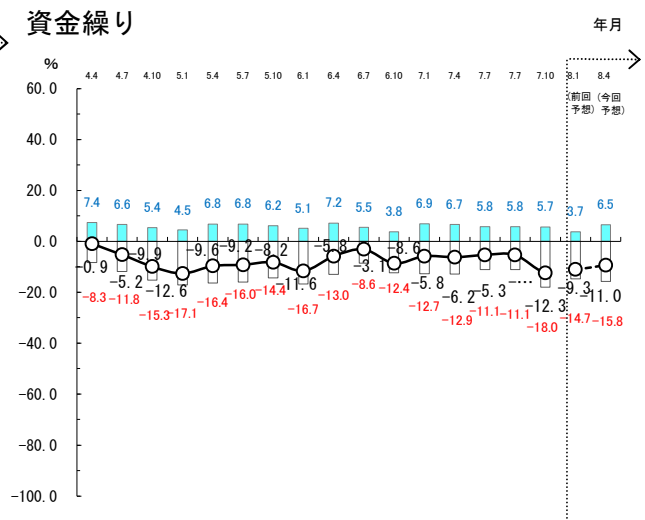
製品販売価格



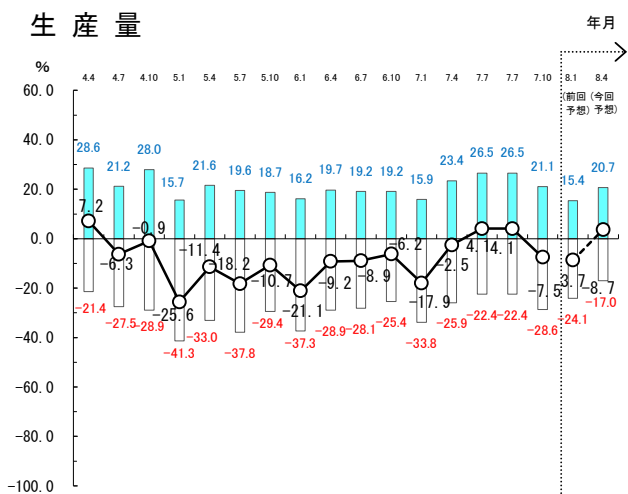
受注引合



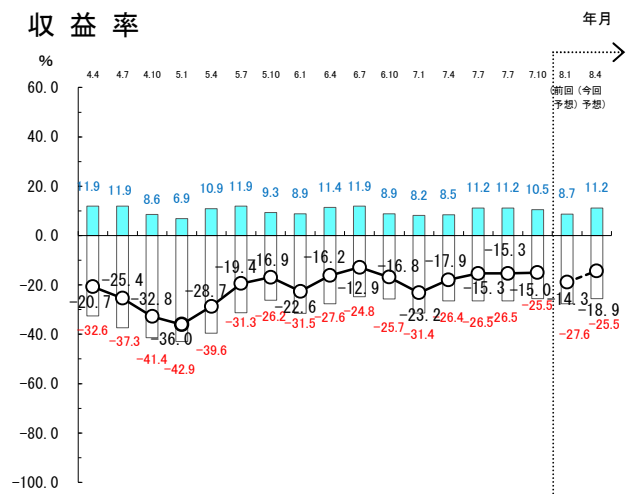
資金繰り



生産量



収益率



## 3 非製造業

### 【総論】

非製造業の業況は、DX化や省力化に伴うIT投資や半導体関連の需要増等を背景に、情報サービス業、卸売業で業況がプラス水準となっています。一方で、物価高騰に伴う人件費を含めた経費の増加、慢性的な人手不足、消費者の節約志向等から、小売業、飲食業、宿泊業で業況が悪化し、非製造業全体の業況は3期連続のマイナス水準となりました。

### 【業界の業況】

#### (1) 業界の業況

前年同期（令和7年1月）と比較したDIは $\Delta 18.7$ となり、前回調査時（令和7年10月）の $\Delta 11.8$ より6.9ポイント悪化し、3期連続のマイナス水準となりました。

3か月前（令和7年10月）と比較したDIも $\Delta 26.6$ となり、前回調査時の $\Delta 6.2$ より20.4ポイント悪化し、3期連続のマイナス水準となりました。

また、3か月後（令和8年4月）の予想DIは $\Delta 10.0$ と、現状からの改善が見込まれています。

#### (2) 各業種の動き

##### ア 建設業

施工単価の引き上げや金利上昇により民間の建設投資には慎重な一面が見られ、技術者の人手不足等に伴い受注量を制限せざるを得ない状況もあることから、売上高DIや受注件数DIが悪化し、マイナス水準となりました。これに伴い、業況DIについても $\Delta 20.0$ と前回（ $\Delta 26.9$ ）から改善しましたが、引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは $\Delta 12.2$ と、現状からの悪化が見込まれています。

##### イ 情報サービス業

人材不足による受注制限から売上高DI、受注件数DIともに悪化したものの、大手企業のDX化や県内企業の省力化に伴う受注が底堅いことから、プラス水準となりました。業況DIについても30.0と前回（44.4）より悪化しましたが、6期連続でプラス水準を維持しました。

3か月後の業況DIは0.0と、改善が見込まれています。

##### ウ 小売業

価格高騰の中で消費者の節約志向は高まり、一部の商品では買い控えもあることから、専門スーパー、衣料品専門店、住関連専門店、その他小売店における売上高DIがマイナス水準となり、小売業全体の売上高DIもマイナス水準となりました。加えて、物価高騰による人件費や修繕費の上昇により、収益率DIが多くの業態でマイナス水準となったことから、業況DIについても $\Delta 29.1$ と前回（ $\Delta 14.3$ ）より悪化し、10期連続のマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは、消費態度慎重化や経費増長期化への懸念から $\Delta 21.0$ と、現状からの悪化が見込まれています。

## エ 卸売業

半導体関連や情報化投資に伴う部材等の需要増により、売上高D I、取引先数D Iが改善し、プラス水準となったことから、業況D Iも18.8と前回(△33.4)より改善し、2期ぶりにプラス水準となりました。

3か月後の業況D Iは6.7と、現状からの更なる改善が見込まれています。

## オ 飲食業

季節要因、物価高騰による法人需要や客単価の落ち込みから、売上高D I、客数D Iともに悪化したことに加え、仕入値や人件費の高騰により収益率D Iも大幅に悪化しました。これに伴い、業況D Iは△22.7と前回(△8.7)より悪化し、2期連続でマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは、4.7と、現状からの改善が見込まれています。

## カ 宿泊業

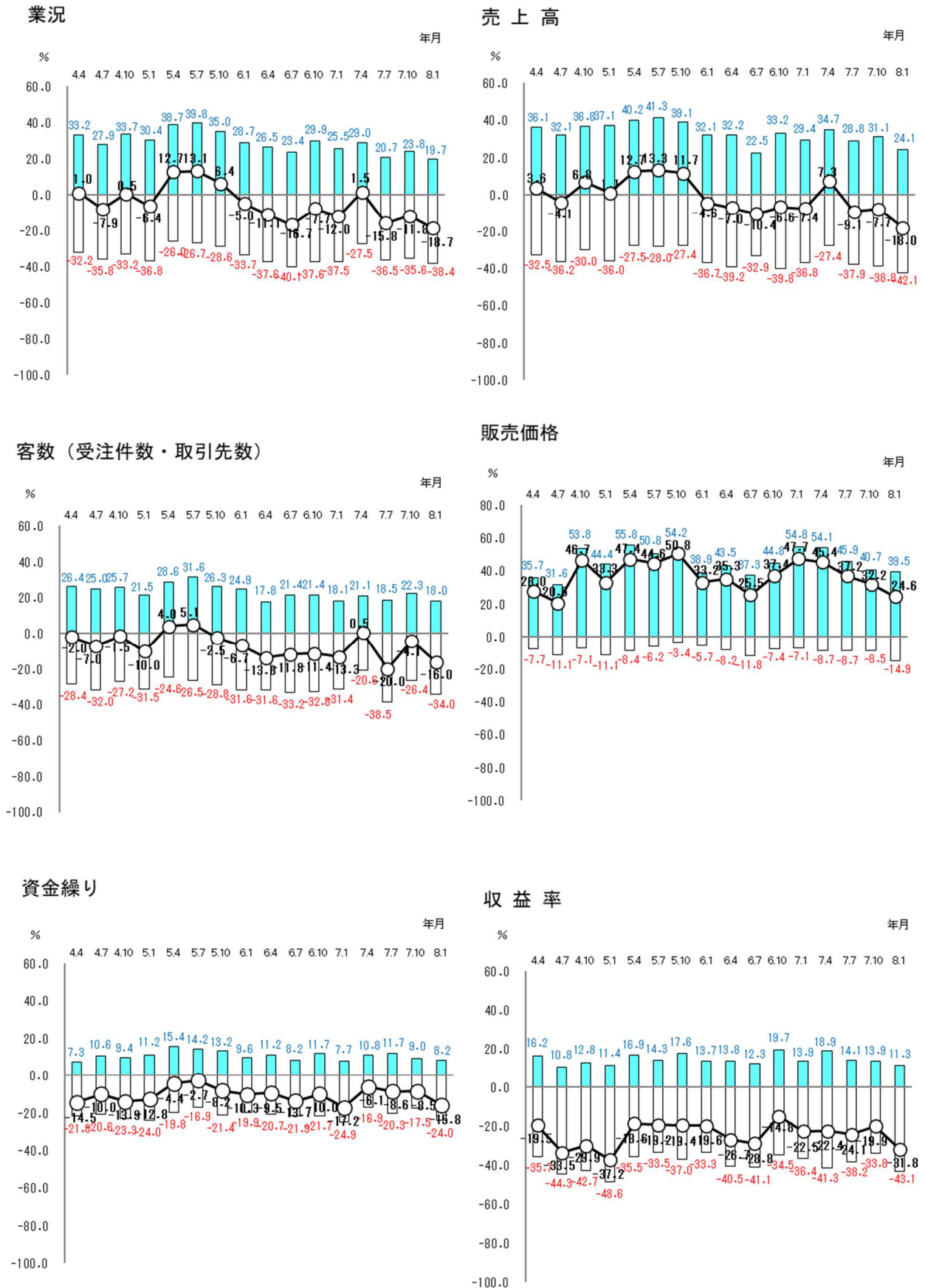
スキー場周辺エリアのインバウンド需要が旺盛な一方で、従業員不足による機会損失や物価高騰による消費減速から、売上高D I、客数D Iともに悪化しました。また、国内旅行者中心の一部の宿泊施設は短期滞在、低単価、稼働低迷等により販売価格D Iも悪化しており、業況D Iは△8.4と前回(25.0)から悪化し、令和3年10月期以来のマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは36.4と、現状からの改善が見込まれています。

## 2 非製造業

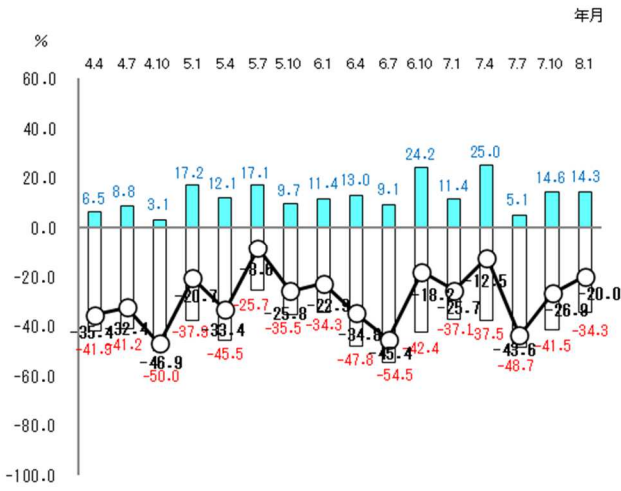
### 非製造業全体

#### (1) 前年同期に比べて

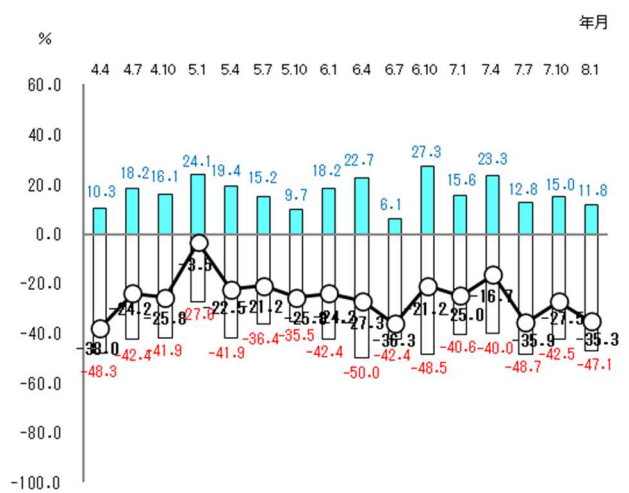


# ア 建設業

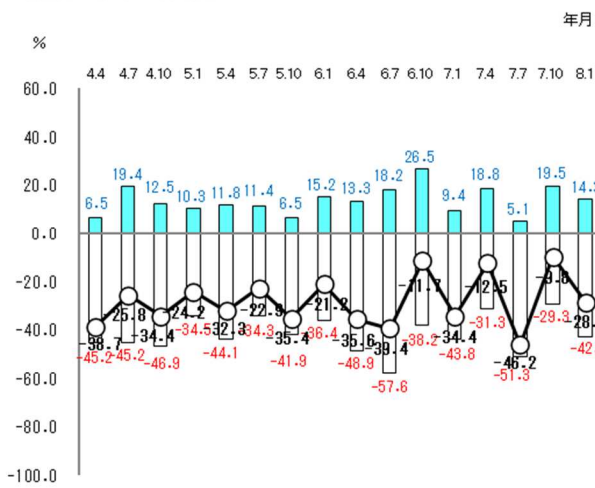
## 業況



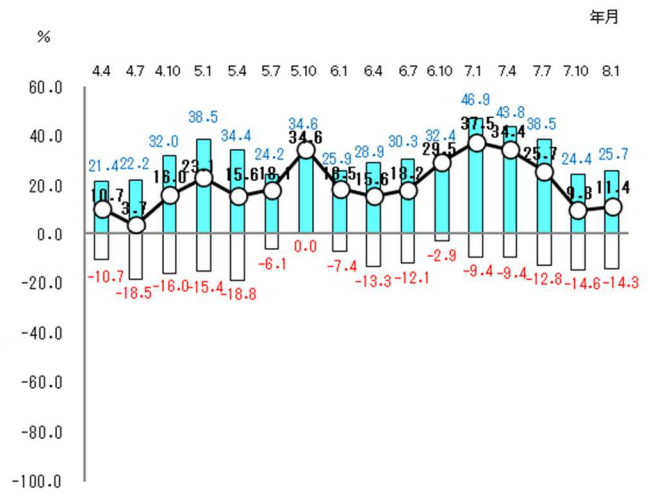
## 売上高



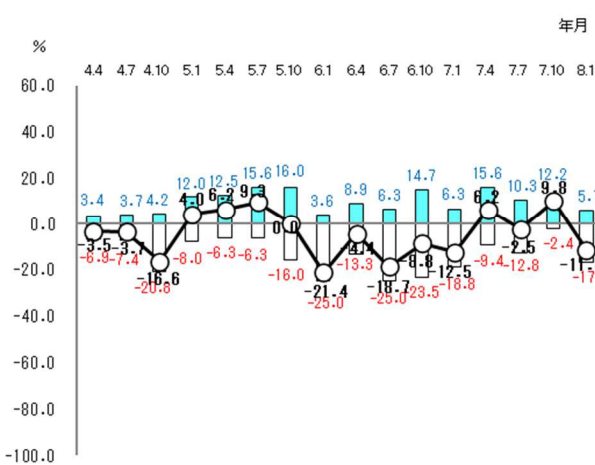
## 客数 (受注件数)



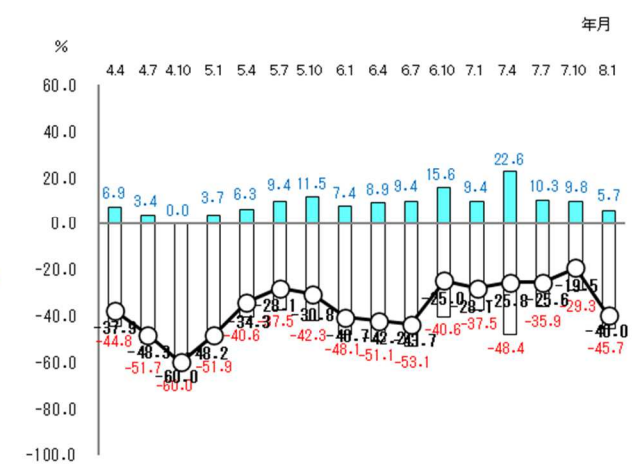
## 販売価格



## 資金繰り

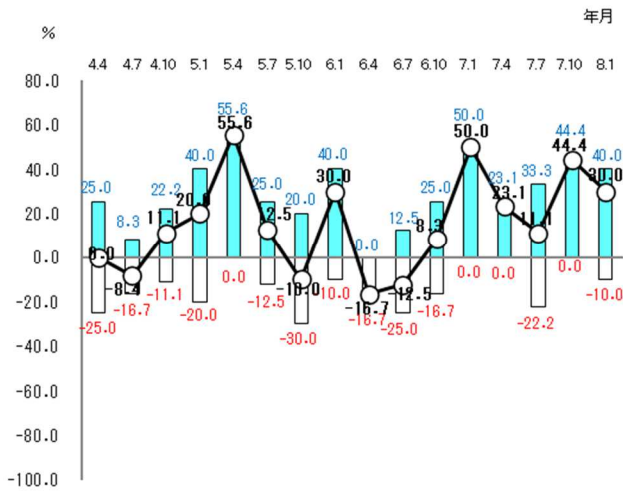


## 収益率



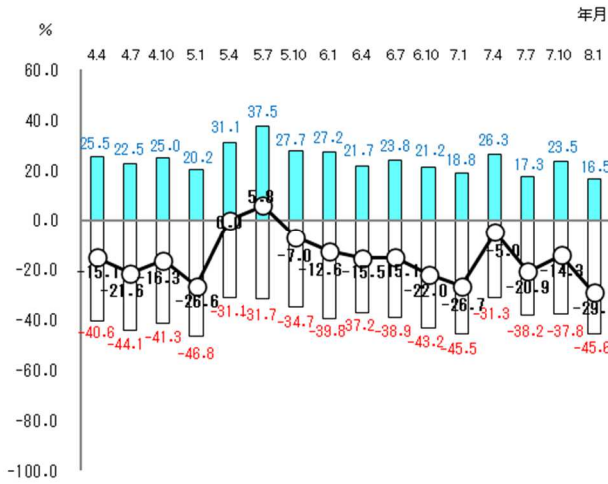
# イ 情報サービス業

## 業況

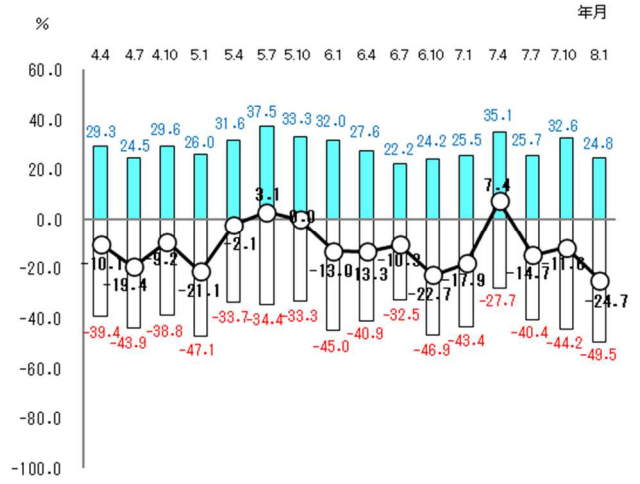


# ウ 小売業

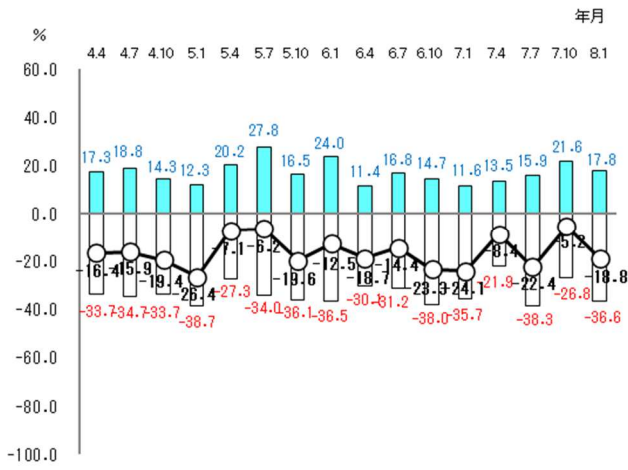
## 業況



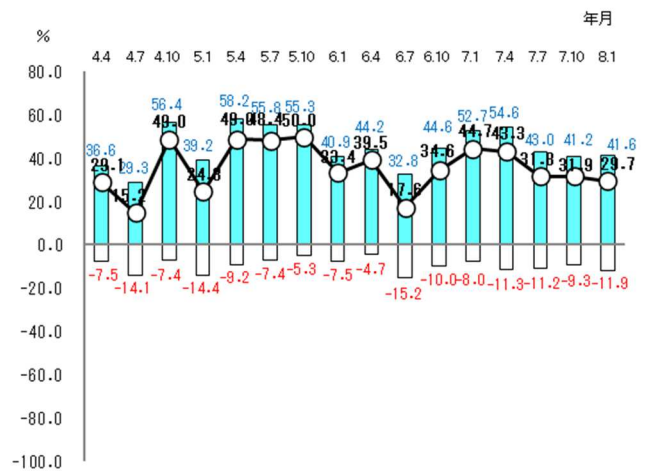
## 売上高



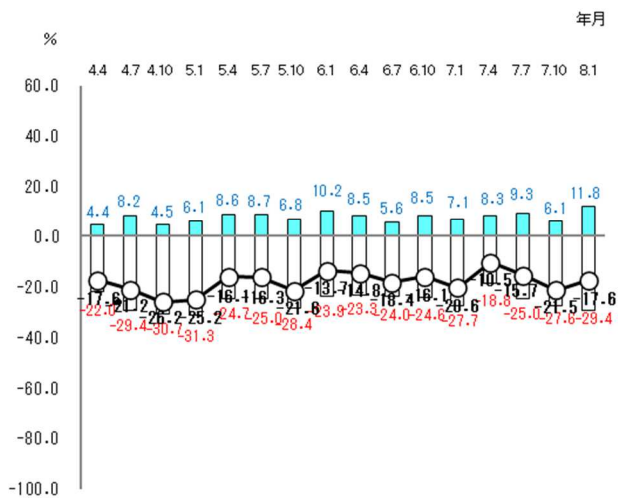
## 客数



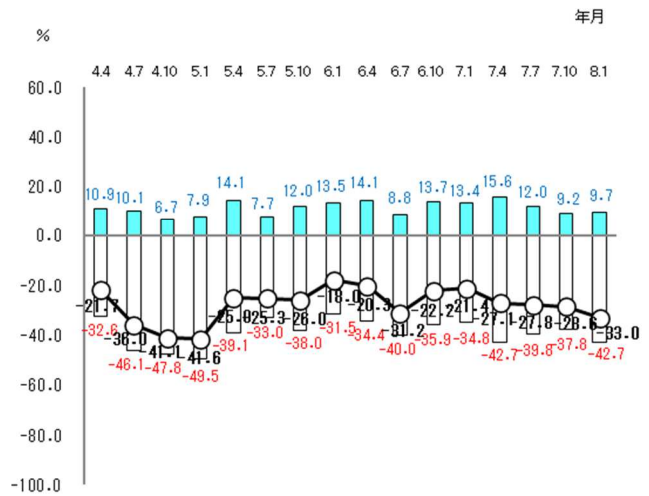
## 販売価格



## 資金繰り

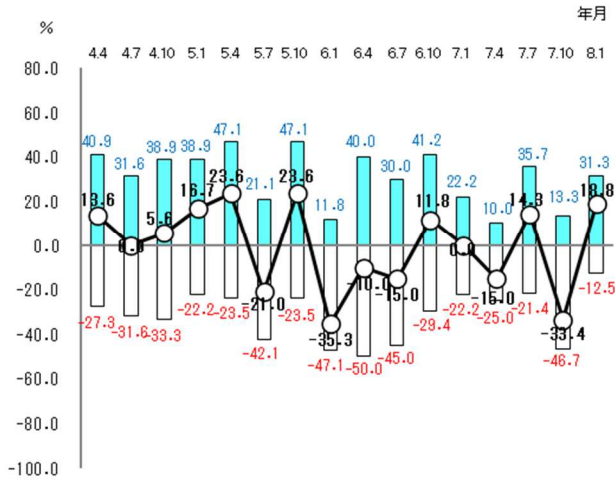


## 収益率

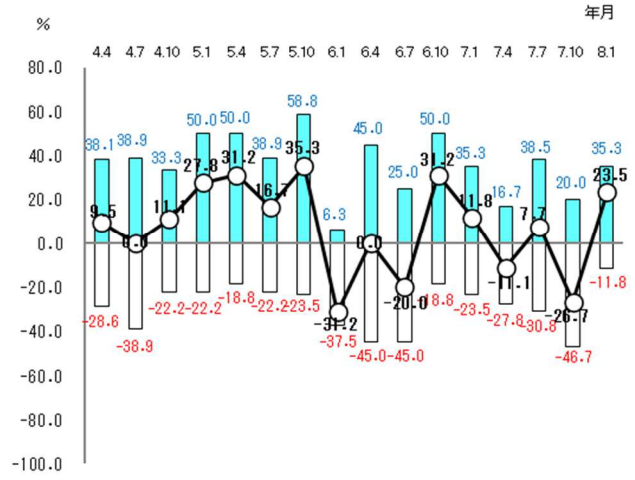


# 工 卸売業

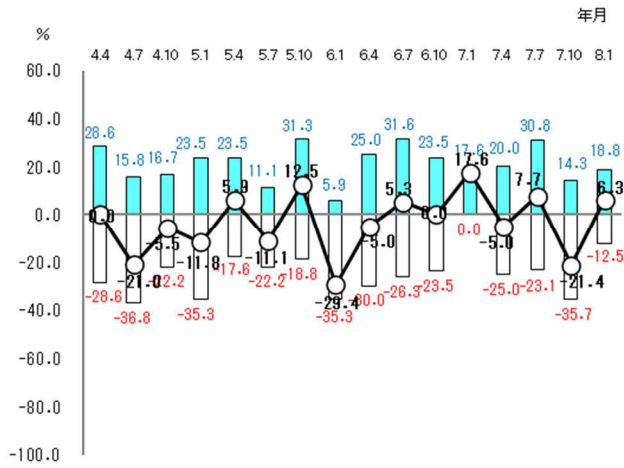
## 業況



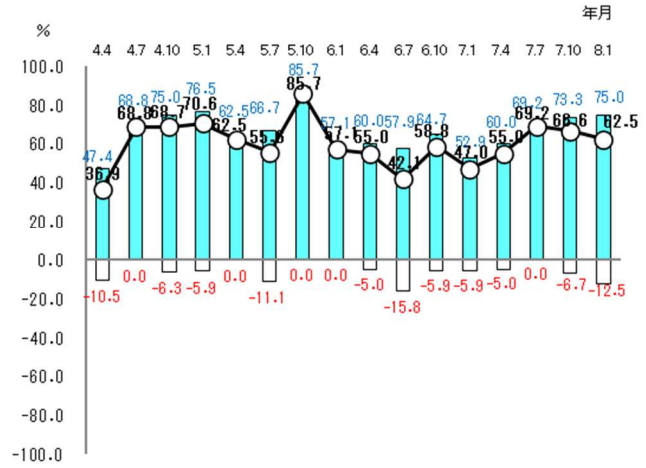
## 売上高



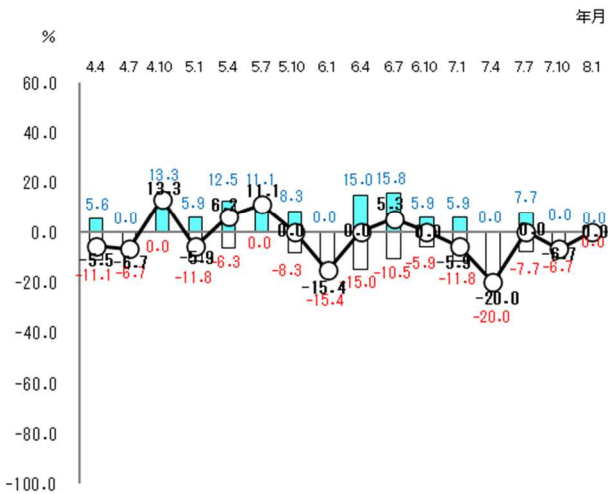
## 客数 (取引先数)



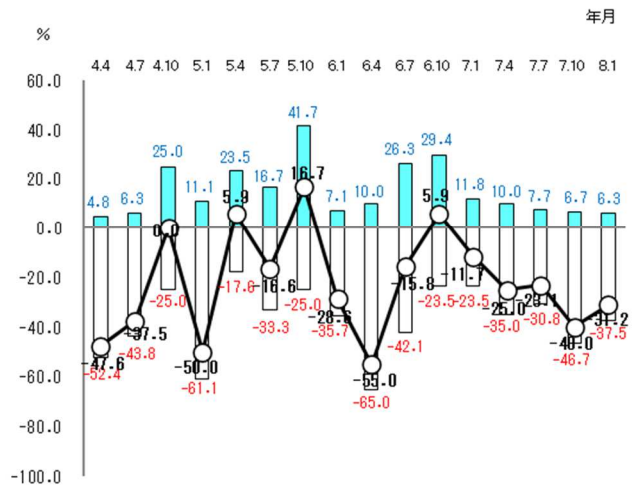
## 販売価格



## 資金繰り

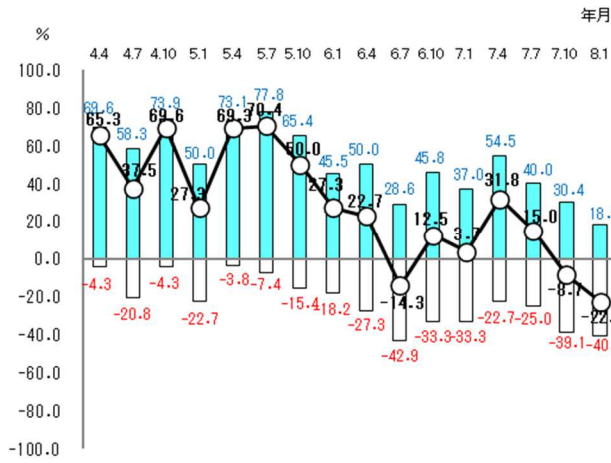


## 収益率

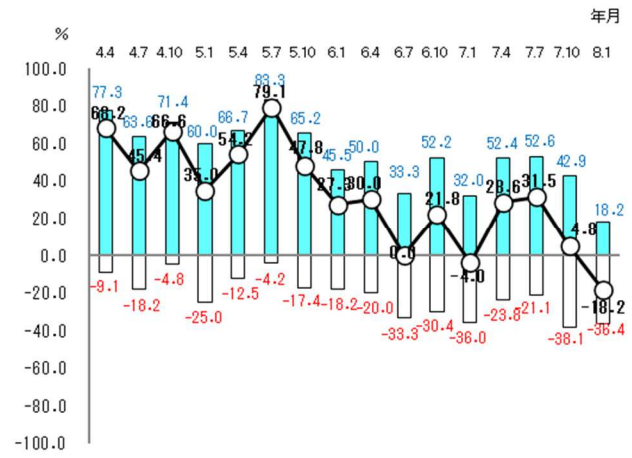


# 才 飲食業

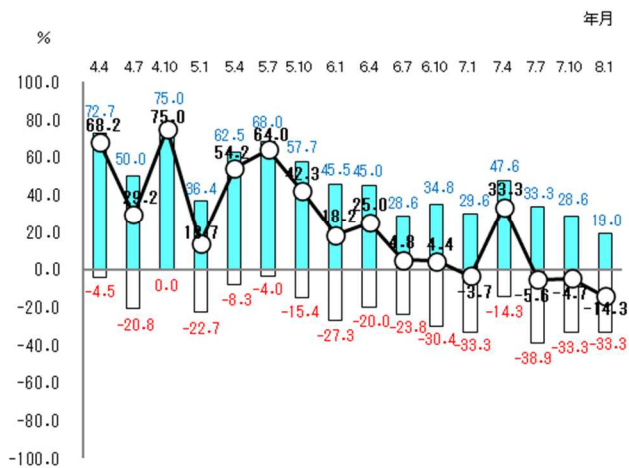
## 業況



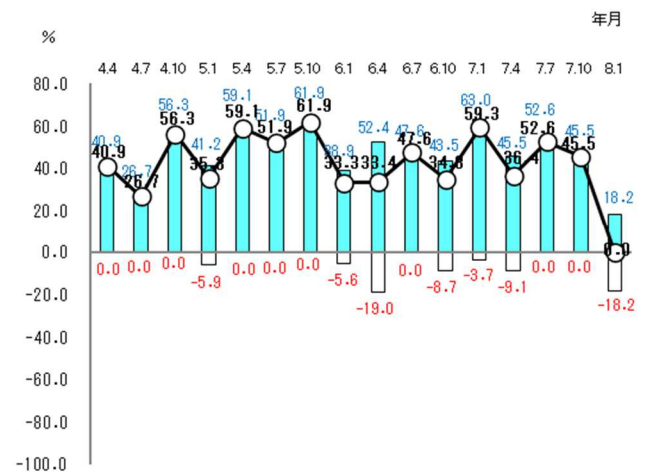
## 売上高



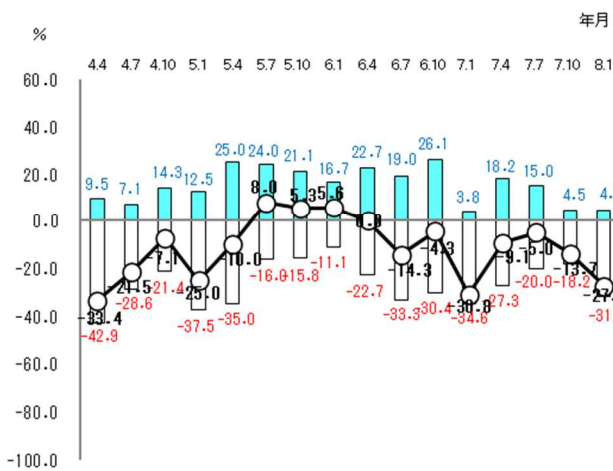
## 客数



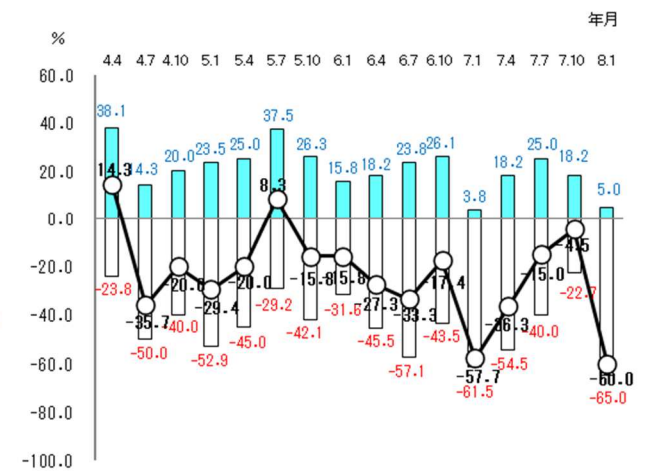
## 販売価格



## 資金繰り

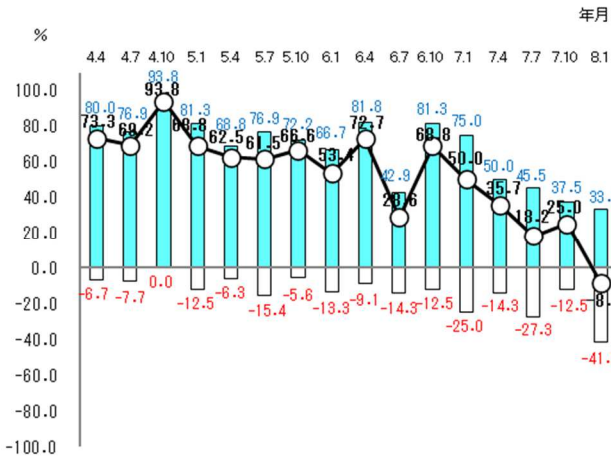


## 収益率

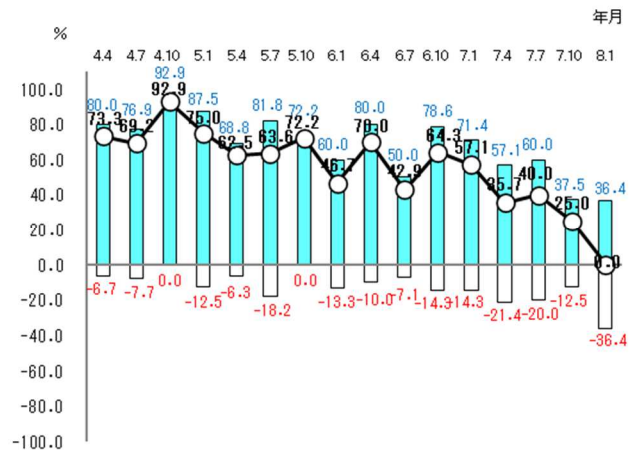


# 力 宿泊業

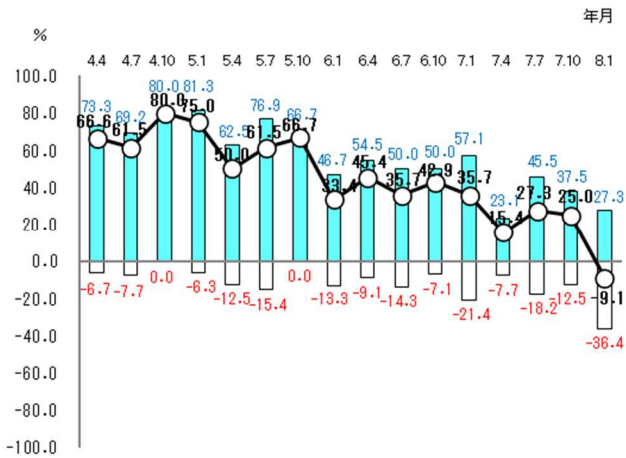
## 業況



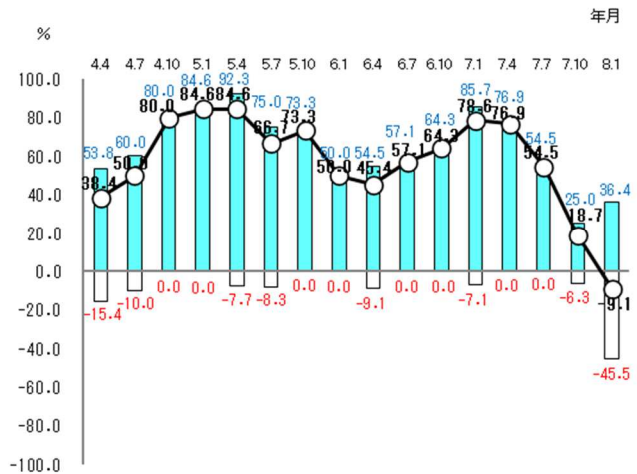
## 売上高



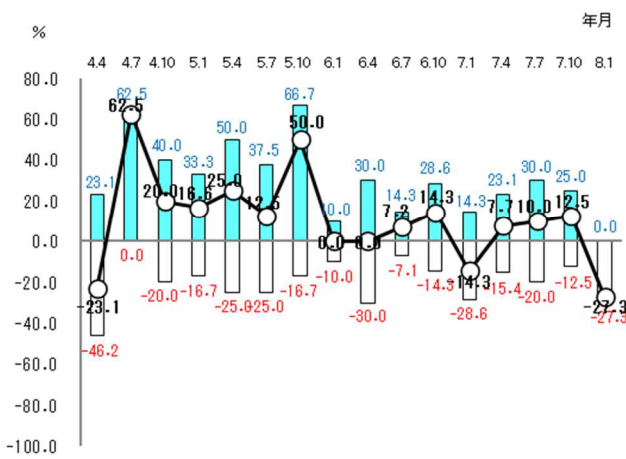
## 客数



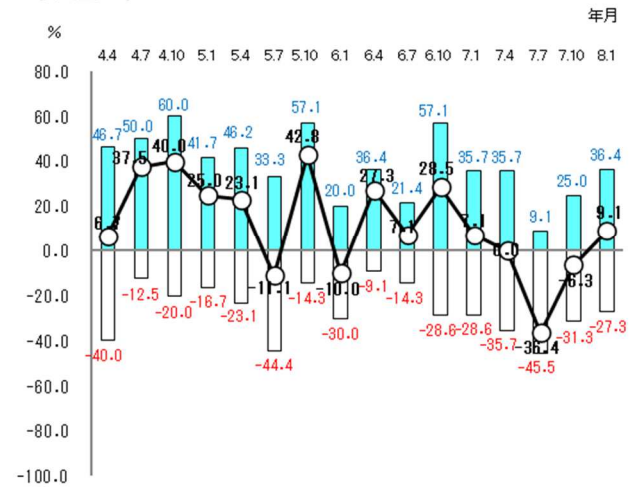
## 販売価格



## 資金繰り

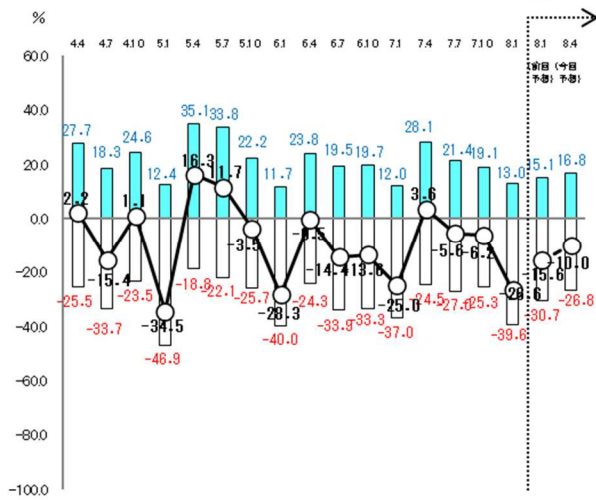


## 収益率

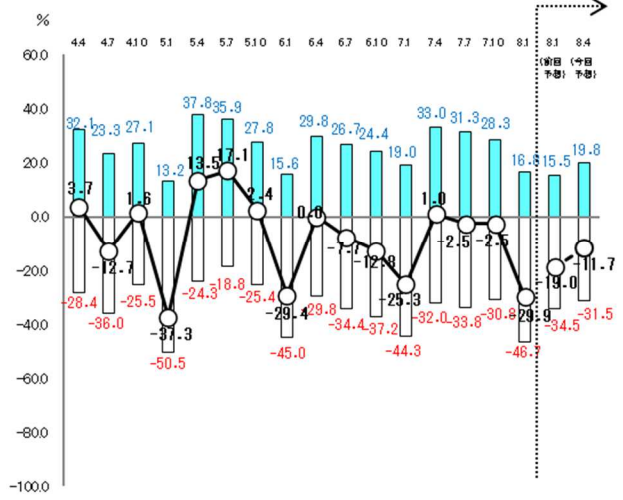


(2) 3か月前に比べて及び3か月の予想  
非製造業全体

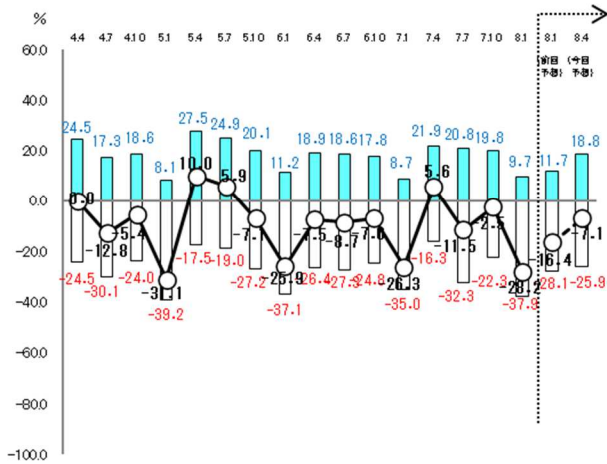
業況



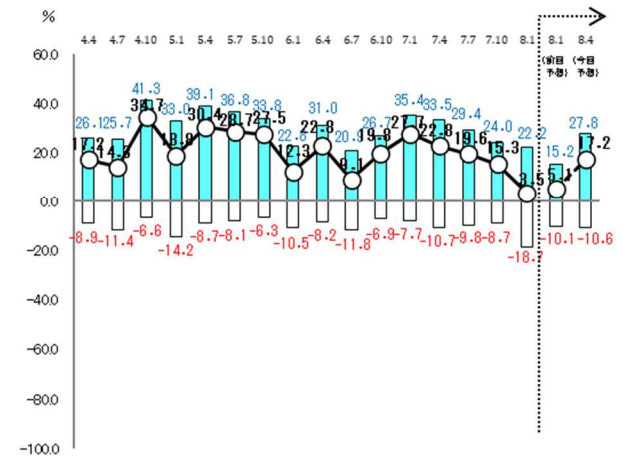
売上高



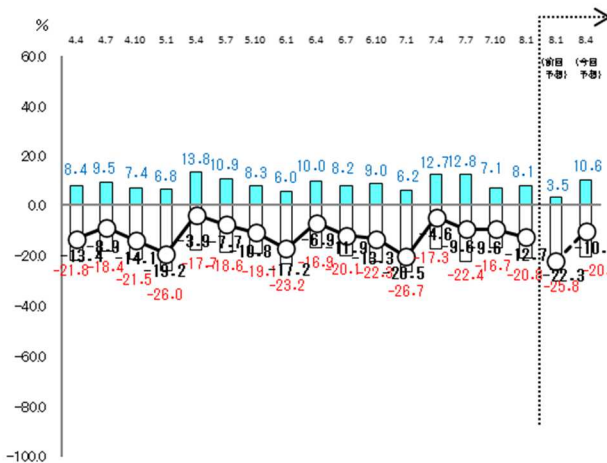
客数 (受注件数・取引先数)



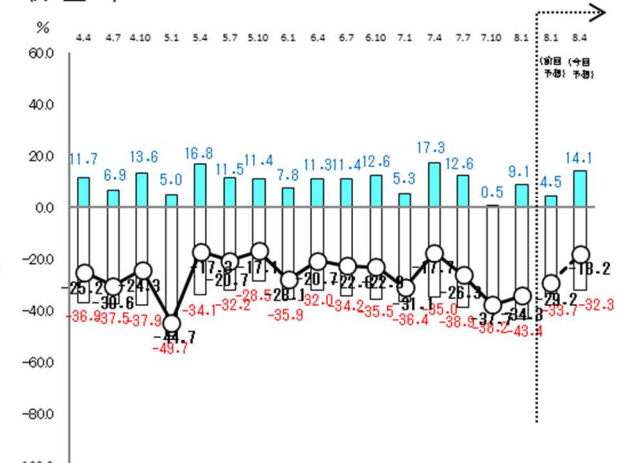
販売価格



資金繰り

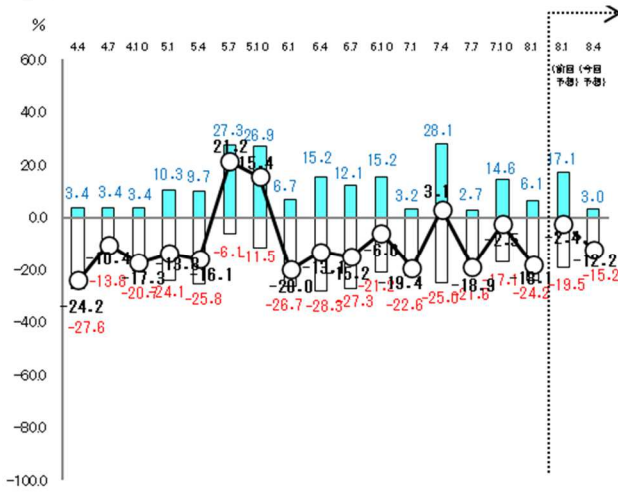


収益率

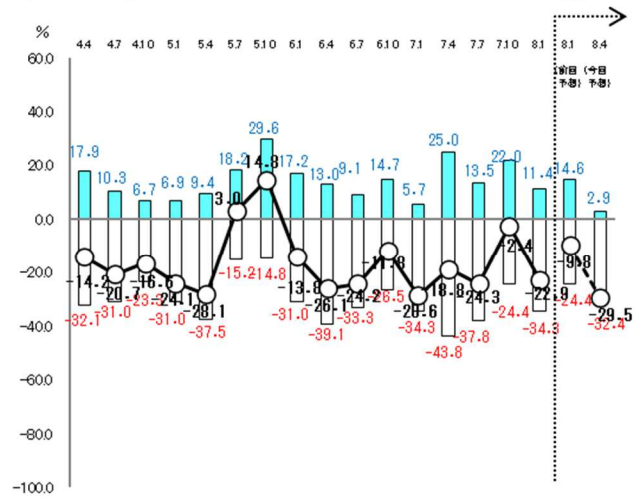


# ア 建設業

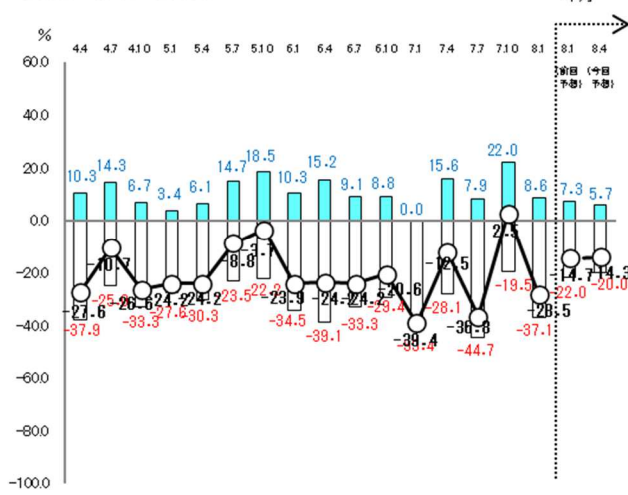
## 業況



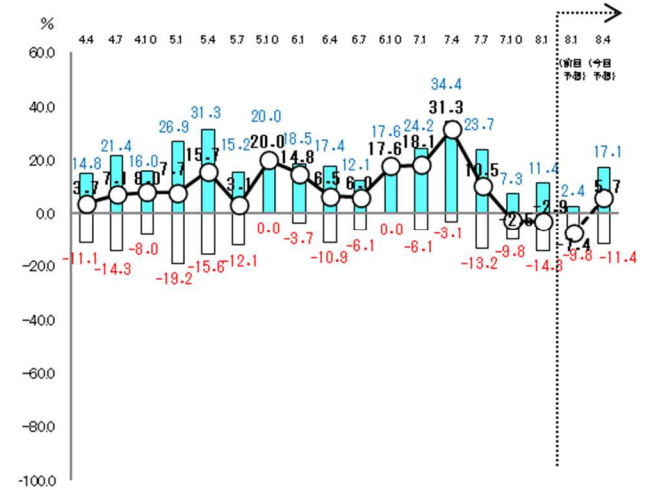
## 売上高



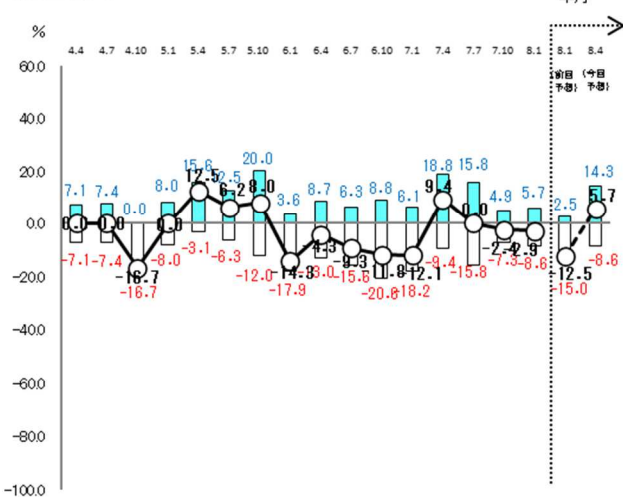
## 客数 (受注件数)



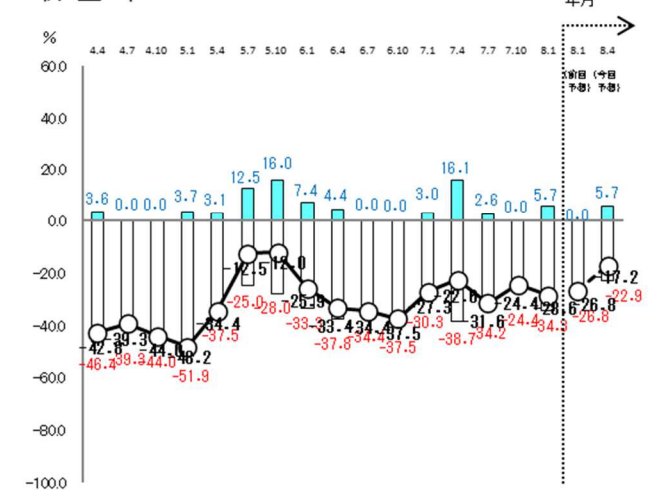
## 販売価格



## 資金繰り

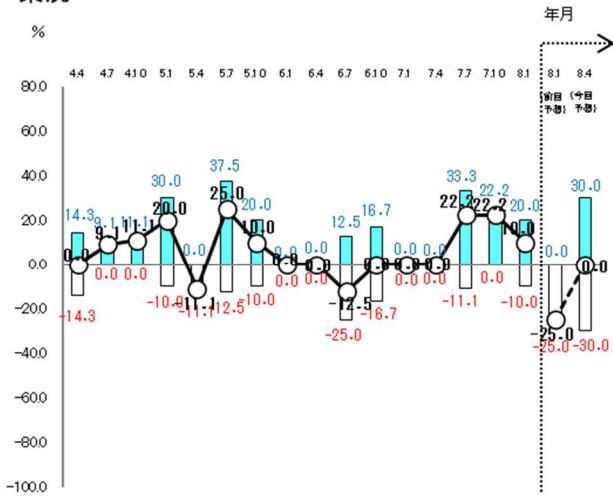


## 収益率

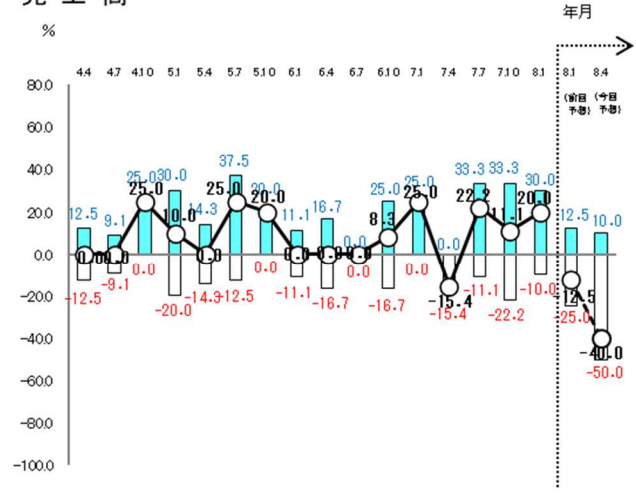


# イ 情報サービス業

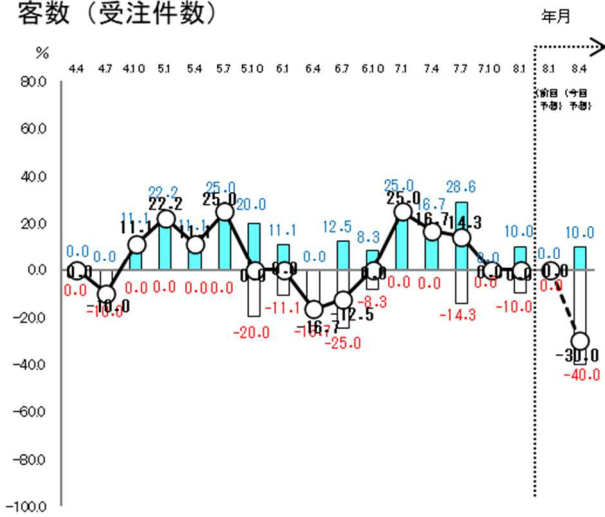
## 業況



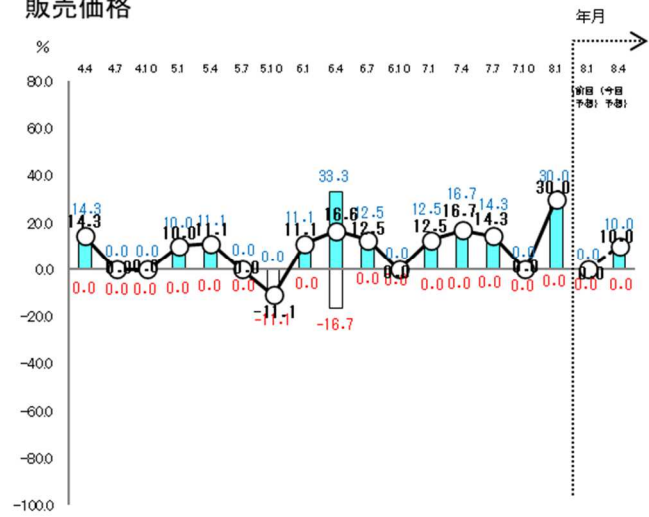
## 売上高



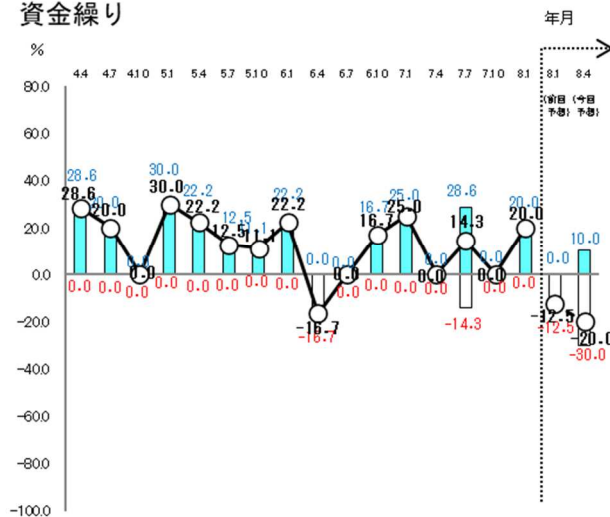
## 客数 (受案件数)



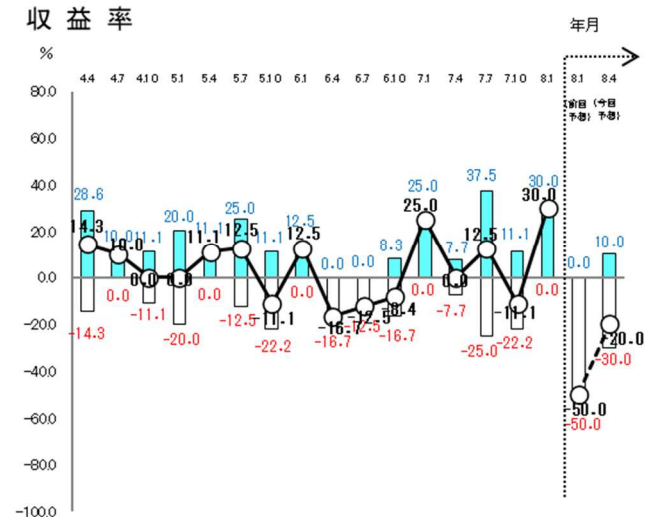
## 販売価格



## 資金繰り

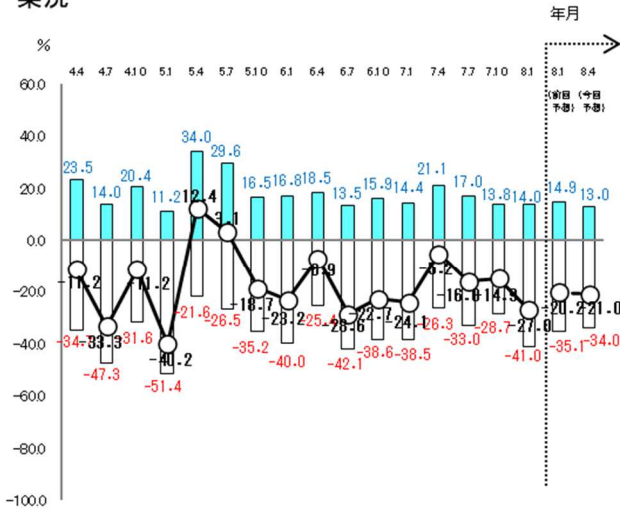


## 収益率

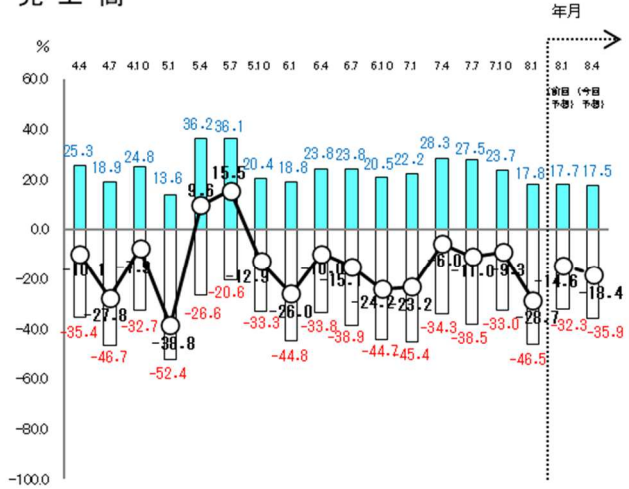


# ウ 小売業

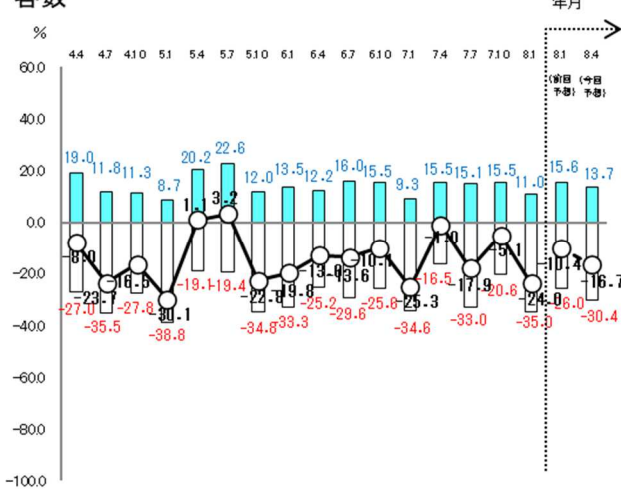
## 業況



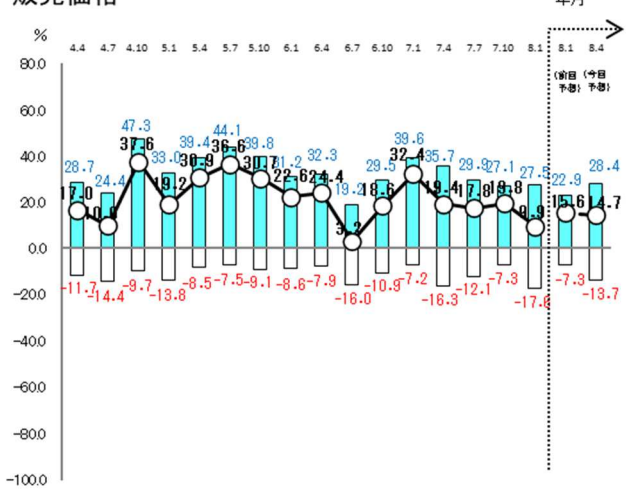
## 売上高



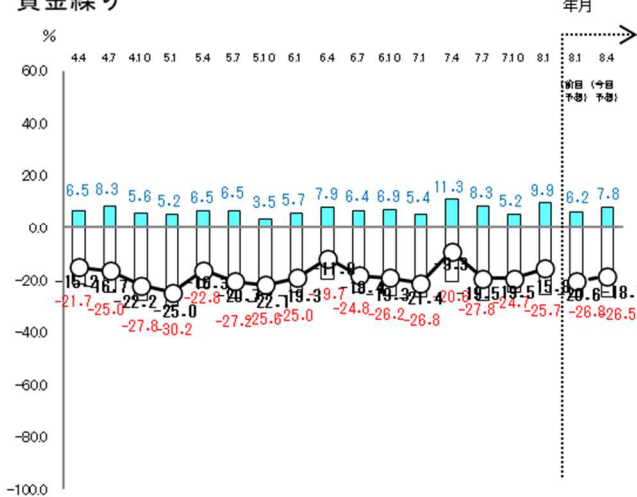
## 客数



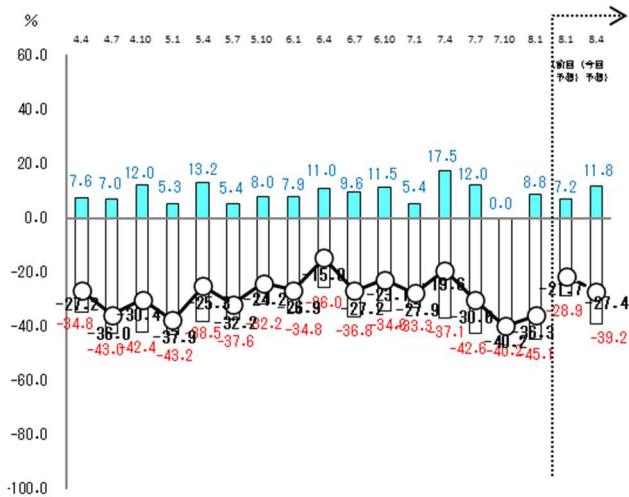
## 販売価格



## 資金繰り

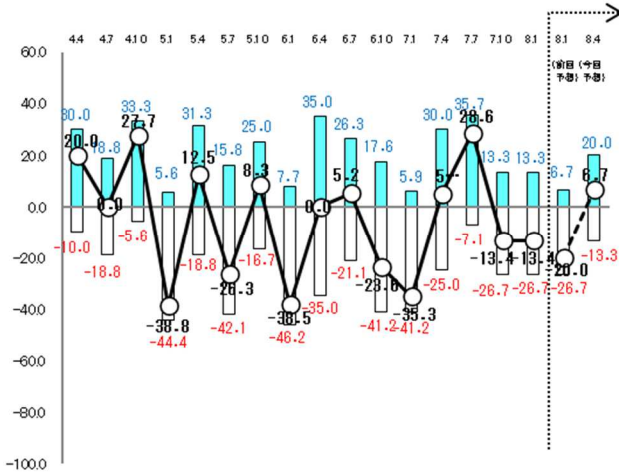


## 収益率

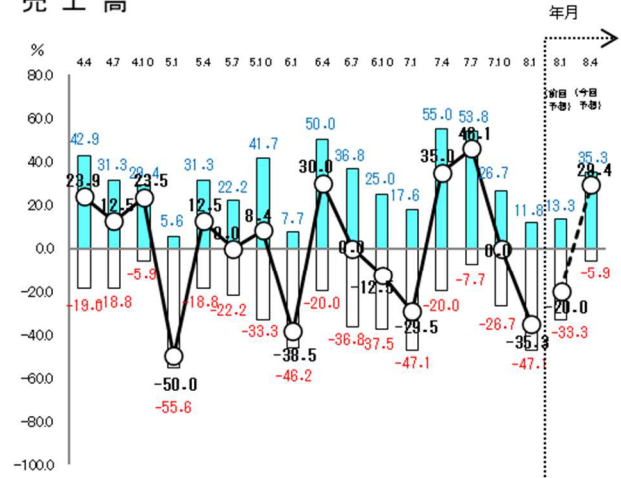


# 工 卸売業

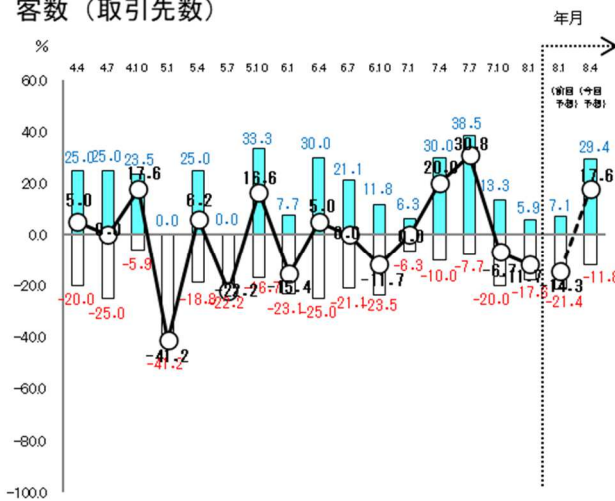
## 業況



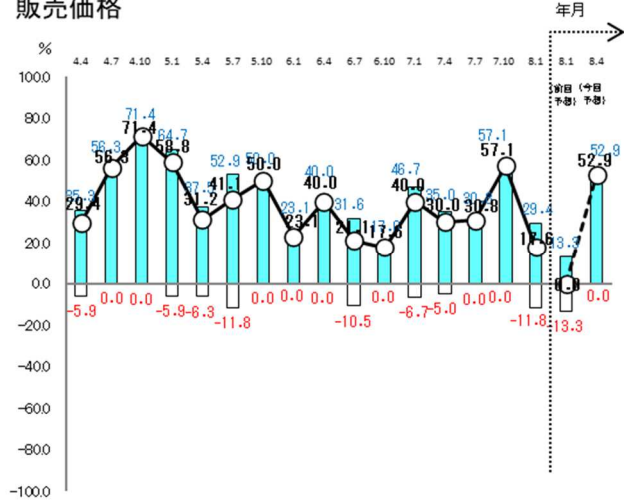
## 売上高



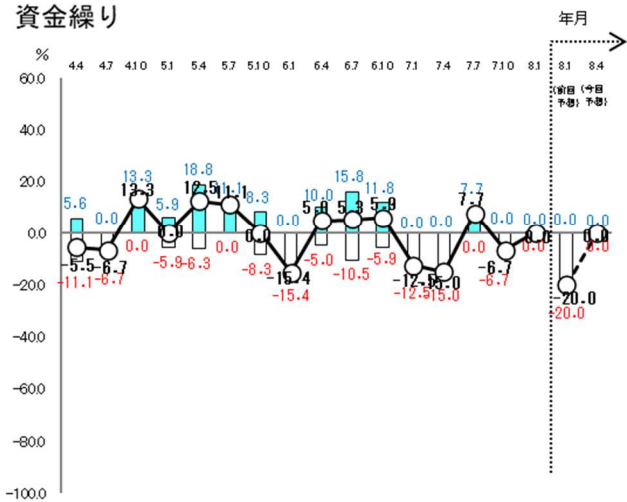
## 客数 (取引先数)



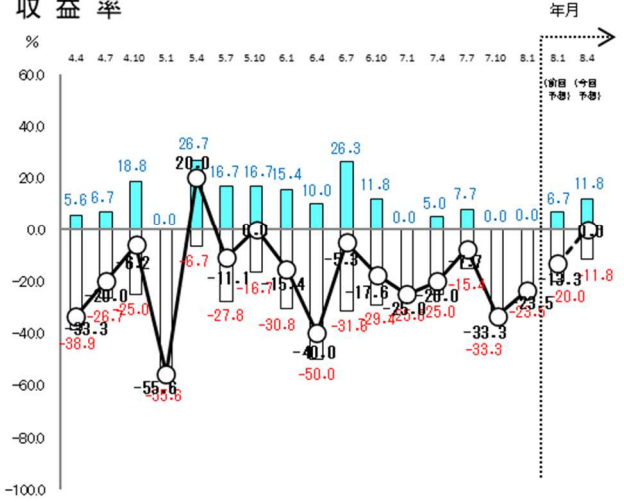
## 販売価格



## 資金繰り

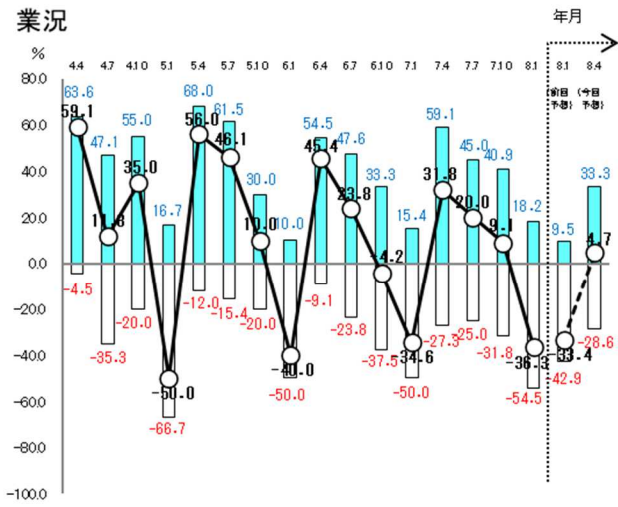


## 収益率

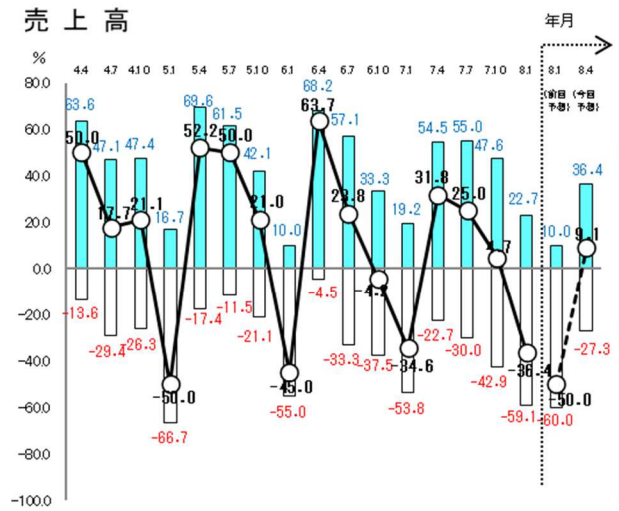


# 才 飲食業

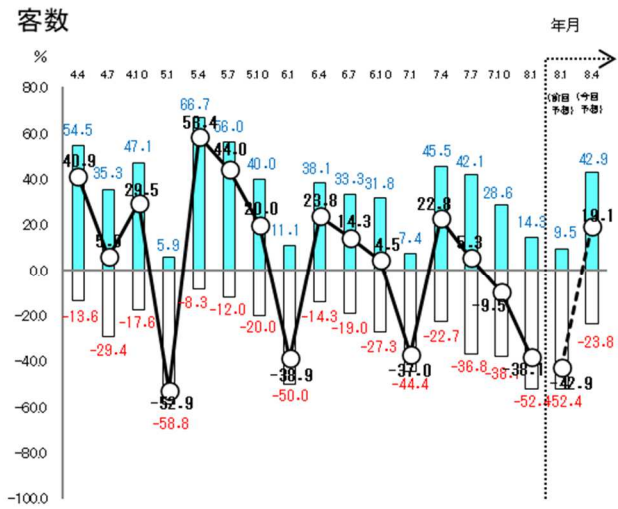
## 業況



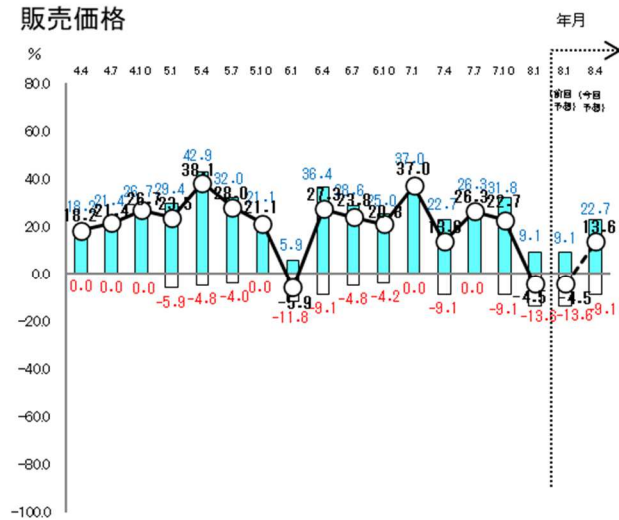
## 売上高



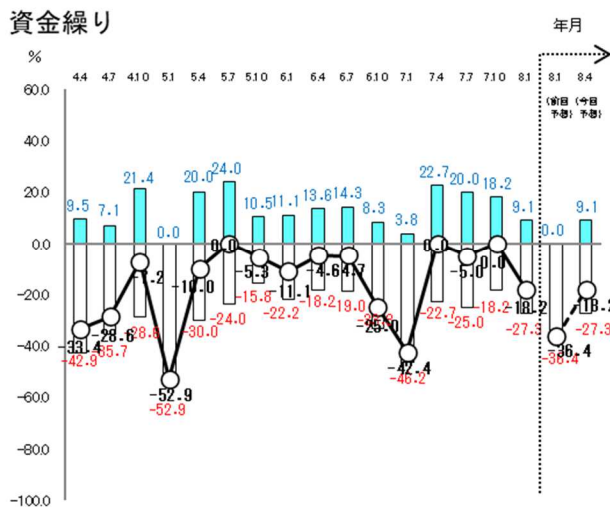
## 客数



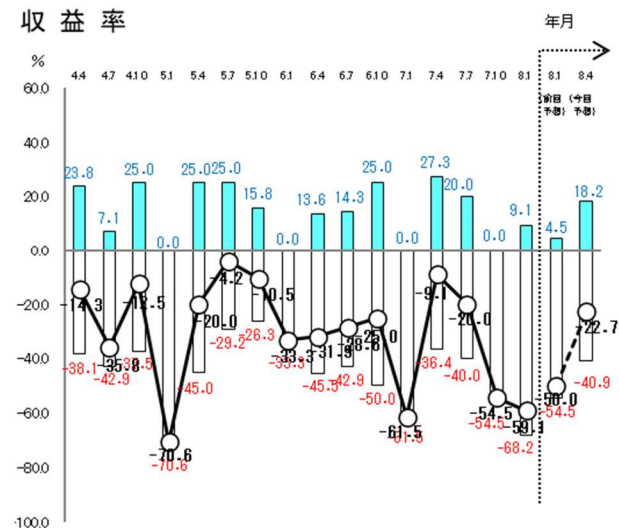
## 販売価格



## 資金繰り

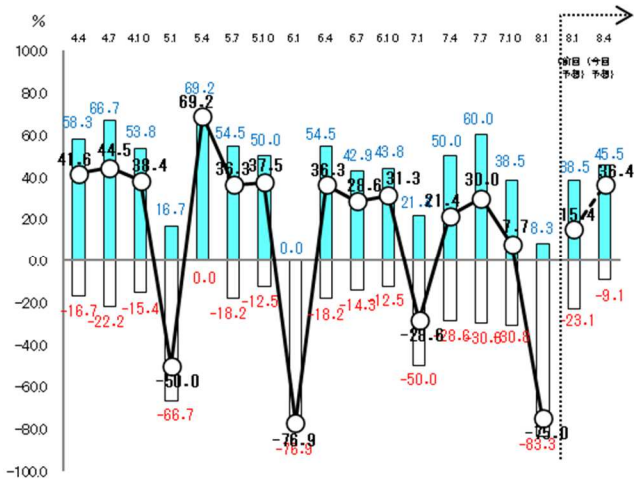


## 収益率

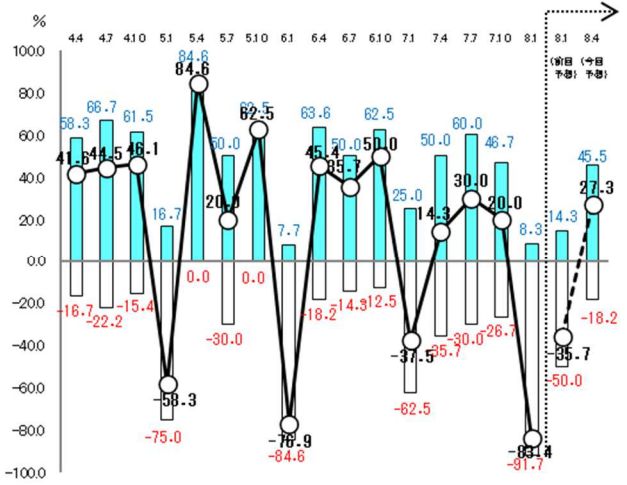


# 力 宿泊業

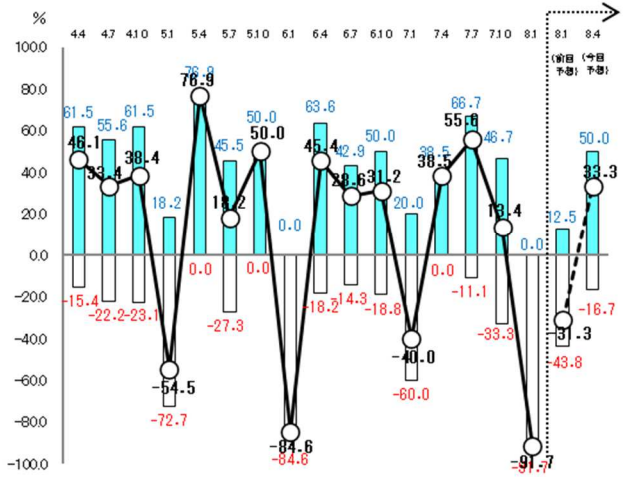
## 業況



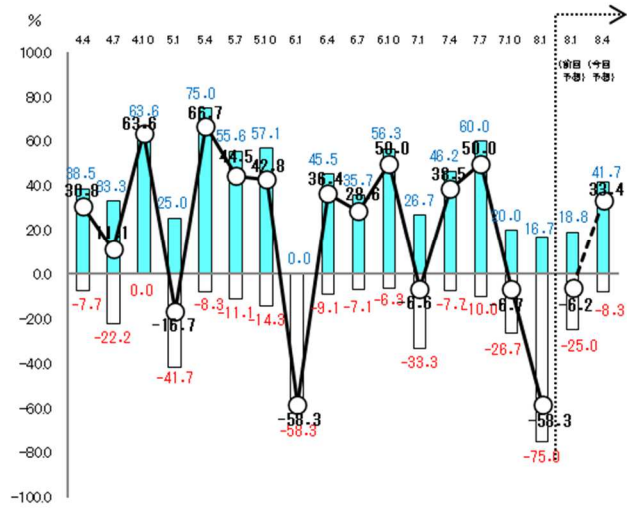
## 売上高



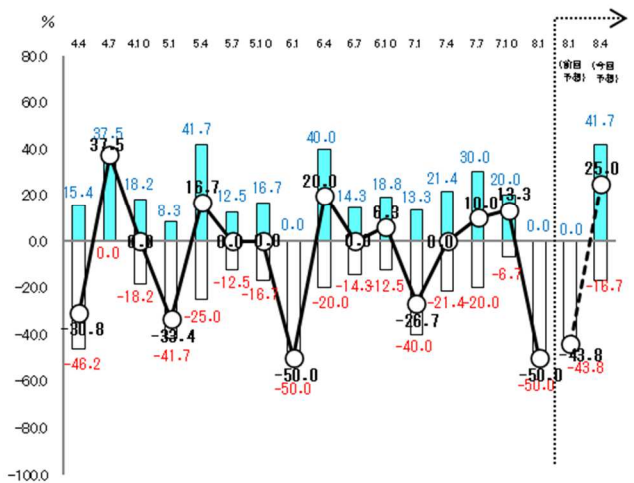
## 客数



## 販売価格



## 資金繰り



## 収益率

